

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (国際協力学)	氏名 Author	RANJAN PRAKASH SHRESTHA
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation	A Study of Indigenous Knowledge in the Context of Urbanization and Sustainable Water Resource Management in the Kathmandu Valley of Nepal		
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	Maharjan, Keshav Lall		印 Seal
	広島大学大学院国際協力研究科 教授		
審査委員 Committee	金子 慎 治	広島大学大学院国際協力研究科 教授	
審査委員 Committee	藤 原 章 正	広島大学大学院国際協力研究科 教授	
審査委員 Committee	河 合 明 宣	放送大学教養学部 教授	
審査委員 Committee	Dangol, Dharma Raj	トリブバン大学理科学研究科 教授	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>ネパールの首都カトマンズにおける深刻な飲料水不足問題に対応する一つの有力な策としてカトマンズ盆地に昔から広く存在するヒティ（伝統的公共水汲み場）の活用に関する問題に着目し、在地の知識（技術、運営、利用）が同水資源の持続可能な管理・利用に及ぼす影響及び飲料水不足問題の改善について設定されている研究課題は適切である。そして、分析課題として、ヒティの在地性、持続性、水質、都市化、向都人口移動に伴う飲料水問題に関する国策、地域的・住民的対応について言及しその重要性をも訴えている。そして、カトマンズ盆地において、同盆地を住処とするネワール民族が自分らの生活文化の中で伝統として今日までヒティを共有水資源維持管理していることを踏まえ、一次資料に基づく問題解決型学際的地域研究の視野に立った分析は評価できる。</p> <p>本論文は8章から構成され、以下のようになっている。</p> <p>序 章：研究の背景、課題と制約</p> <p>第2章：先行研究のレビュー</p> <p>第3章：研究概念及び分析のフレームワーク、方法論及び調査地の位置づけ</p> <p>第4章：研究対象地の社会経済状況、都市化、人口の動向及びヒティのマッピングと利用状況</p> <p>第5章：在地の知識と共有水資源管理</p> <p>第6章：都市化、人口の動向及び水資源管理の変容及び水質検査分析</p> <p>第7章：ヒティの持続的利用—自主管理の協力行動・自己組織化の事例分析を中心に</p> <p>終 章：結論</p> <p>ヒティの利用、維持管理における今日の変容においてハーディンの「コモンズの悲劇論」及びオストロムの「共有資源管理論」を援用し研究課題を設定し、その理論的枠組みをもって行われた分析によって、1) カトマンズ盆地の中 507 ヲ所に点在するヒティを確認し、その利用状況を把握しマッピングしたこと、2) 各ヒティの維持管理について利用者・近隣住民の聞き取り調査によって用途分析を行い、維持管理における住民参加形態について自主管理の8つの協力行動に照らし合わせ分析したこと、3) 急な人口増加・都市化により、水道局による飲料水の需給バランスがとれない状況下、ヒティ利用・管理の変容を明らかにしたこと、4) 一部において利用者が自主管理の協力行動に基づいてヒティを管理し持続的に利用していることを事例分析によって明らかにしたこと、5) 飲料に利用されているヒティの水質検査を行い飲料に適否の分析を行い利用者の不安に応えたこと、6) 研究成果の一部は内外で査読付学術論文(3本)、また一部(6本)は国際学会などで口頭発表されていること、7) 以上の研究を踏まえ、同問題の理解を深め、都市化、異文化・民族の外部性の影響を受けやすかつ管理者と利用者が異なりうるヒティのような共有資源を持続的により安全な飲料水を供給できるようにするため、近代技術を活用しながらグティ、シティ・ナカー等の在地の知識を体系的にとらえ自己組織化し、活用する独自の研究説を展開し、研究成果を先駆的に政策提案としていること等が評価する点として注目された。</p> <p>以上の結果、審査委員一同が本論分が博士(国際協力学)に充分値すると判断し合格と判定した。</p>			